

授業科目

現代社会と経済

担当教員名 原 敏明	対象学年	1	対象学科	全学科
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	◎	◎

授業の概要

現代社会は大きく変化している。この変化の主流である米国、ユーロ圏、アジアの動向を理解し、合わせて先進25カ国の医療関係の水準と企業におけるうつ対策の現状、日本における先端的な訪問看護センターと、先端的なデイサービスの事例を知る。

授業の目的

世界は、東西冷戦時代のG2時代から、ソ連の敗北と分裂を迎え、リーダーは米国のみG1時代へ移行したかに見えた。だが米国は「世界の景観ではない」と宣言、G0となった今、野心のある酷寒が領土の拡大に走っている。ロシア、中国、「イスラム国」などがそれである。こうした時代を見つつ、日本の社会はどうか、医療環境が事実上日本最下位級、自殺は日本最多率の新潟を事例に、地方は、医療・福祉・健康維持は、どうあるべきかを自ら考え、チームの仲間と意見交換し、自ら考える力をつける。これが授業の目的である。

学習目標

大教室で多数の学生で行われる授業だが、少人数で行われるゼミのように、他学科の学生の意見も聞ける工夫をした授業の中で、上記の授業内容を理解するとともに、コミュニケーション能力の向上を実感する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	ハーバート大学医学部の困る学生と望む学生、なぜ面接重視かを知り、望まれる人物像を理解する。都道府県別医療の現状、デイサービスの例を知る。	講義・演習	原 敏明
2	先進国であるOECD加盟25カ国の医療関係の現状（平均寿命、糖尿病、病床数、平均在院日数、医師数、看護師数、交通事故、自殺など）を知る。	講義・演習	原 敏明
3	工業時代の代表的製品・自動車が、産業革命の英国でも自動車発明国・ドイツでもなく、なぜフランスだったかを知り、成長戦略の必要性を理解する。	講義・演習	原 敏明
4	米国フォードの成功から新興工業国の戦略とルイスの転換点と呼ばれる限界、米国GMの成功から先進国の戦略を理解する。	講義・演習	原 敏明
5	ドイツと日本の工業時代の成功と、住宅バブル克服を理解する。	講義・演習	原 敏明
6	米国の住宅バブルがリーマンショックと呼ばれる崩壊をし1930年代大恐慌に匹敵する影響と、オイルシェール革命のアジアへの影響を理解する。	講義・演習	原 敏明
7	ユーロ圏の南欧の住宅バブル発生と経済的困難な現状と北アフリカへの影響を理解する。中国の急成長と困難な課題を理解する。	講義・演習	原 敏明
8	まとめ。最終レポート提出。		原 敏明

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

評価方法

ミニレポートの内容を6割、最終レポートの内容を4割として評価する。

履修上の留意点

原則として女子3名男子3名のゼミ同様の少人数チームを編成する。毎回、チームで課題を討議し答えを探求するアクティブ・ラーニングを行う。毎回、前半の講義中は私語をつつしみ、後半のチーム討議では、チーム員の意見を傾聴し、自分の意見を述べること。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。